

人と動物とのハーモナイズ事業の展開

長野県動物愛護センター

○ 大木正行, 松澤淑美, 和田啓子, 中村和夫

1. はじめに

当所センター「ハローアニマル」は、平成12年4月29日にオープンした。一年間の事業を通して反響や要望が多く寄せられ、新たな事業展開も見られたので、その概要を報告する。

2. 主な事業および新展開した事業

来館者対象に、動物ふれあい教室、犬ねこの飼い方教室、体験教室、職場体験学習、乗馬体験、犬ねこの譲渡、動物相談窓口、ボランティア育成などの事業及び当センターから出向く動物ふれあい訪問事業をそれぞれの目標値を設定し実施した。

(1) 不登校の児童の動物ふれあい事業

ふれあい教室参加の複数の小学校から、不登校の児童が「ハローアニマルには行きたかった」との連絡を受け、追加して5名の不登校児対象の動物ふれあい事業を実施した。

(2) 職場体験学習の受け入れ

中学校の職場体験学習では、当センターも1校につき8名の受け入れ体制をとっていたところ、他施設から受け入れを拒否されている問題生徒の要請があり6名を引き受けた。

3. 結果

(1) 不登校の児童は5人は、その後、担当教諭「心の相談員」と定期的に当所を訪れ、動物の世話や犬のしつけ方などに興味を持ちすすんで取り組み、今春 から一人を除いて4人が学校へ登校した。

(2) 職場体験での他職場から拒否された生徒は、予想に反しまじめに作業に取り組み、心配して何度も様子を見に来た教諭を驚かせた。

4. 考察

(1) 不登校の児童については、当センターとして再登校を目指し、ふれあい事業を実施した訳ではないが結果的に、登校という転機を迎えたことは予想外の成果であった。いわゆる引き籠もりの児童にとっては、犬等の飼育開始がきっかけとなり、散歩の必要性から自然に引き籠もりが解消された事と同時に、動物を話題としての会話で、徐々に人とのコミュニケーションもとれるようになったことは、動物の介在による効果が大きいと考えられる。

(2) 職場体験学習の受け入れからは、学校ではいわゆる「問題児」とされる男子生徒であっても、動物に接すると素直な気持ちになり、日頃学校では清掃道具さえ持たない生徒が進んで動物舎の清掃に取り組むなど、予想外の展開となったことは動物の人の気持ちへ与える癒しの効果の、新たな一面をうかがい知る事ができた。

5. まとめ

センターがオープンして「人と動物とのハーモナイズ事業」を年間計画に基づき実施して行く中で、当初想定した以上の反響があった事業や全く予測できなかった事業展開及び顛末が見られたことは、人に対する動物の持つ数々のパワーの偉大さを改めて再認識する結果となった。

今後も住民ニーズや社会ニーズを敏感にキャッチし、リアルタイムに対応できる事業を、さらに展開して行きたいと思う。

(スライド略)